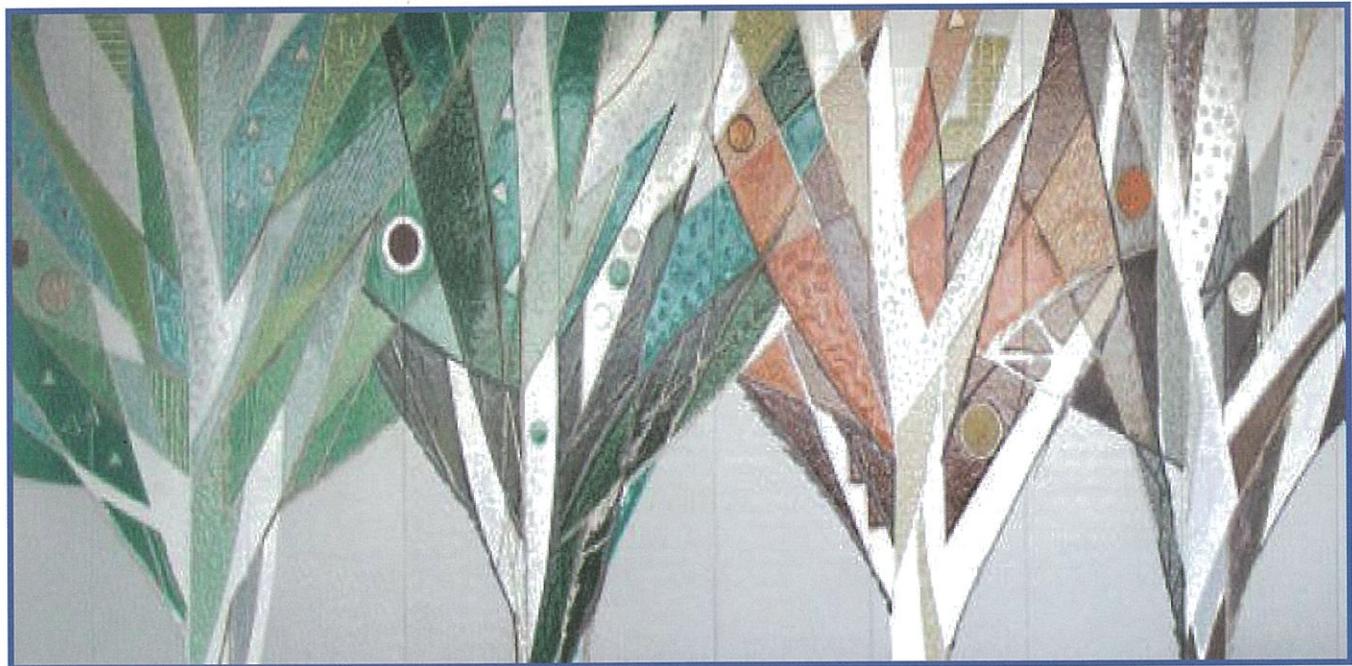


もの忘れセンター ご案内



国立長寿医療研究センター

はじめに

我が国における認知症患者数は増加の一途をたどっておりすでに460万人に達するとも推計されています。厚生労働省は、全国230か所に認知症疾患医療センターの設置を計画していますが、国立長寿医療研究センターでは、そのモデルとなる「もの忘れセンター」を新たに設置し、2010年9月には外来部門2011年4月に入院部門を開始とともに、愛知県から認知症疾患医療センターとしての県内最初の指定を受けました。

高齢総合診療科(老年科)、神経内科、精神科、放射線科、脳神経外科の医師が もの忘れセンターに集まり、最先端の診療機器を用いた認知症診断、共通カンファレンスでの診断決定、コメディカルや家族を含めたチーム医療、地域連携を実施することで認知症の予防から終末期まで切れ目のないサービスを提供します。

また、当センターでは認知症高齢者における長期データベースの作成、研究所や認知症先進医療開発センターと連携した臨床研究の成果の発信も行なっています。

認知症診療において必要なすべての機能を備えた、認知症疾患医療センターの新しいモデルである「もの忘れセンター」をご紹介します。

所 在 地

もの忘れセンターは、国立長寿医療研究センター（愛知県大府市）の西病棟に開設されました。



国立長寿医療研究センター

もの忘れセンターの理念

もの忘れセンターは、一日でも長く在宅で穏やかに暮らすため、認知症に対する患者・家族の希望をかなえることを理念としています。

この理念をもとに、私たちは次のことを目標とします。

1. 認知機能を維持するための医療・サービスの提供
2. 認知症の周辺症状の速やかな改善
3. 生活機能の改善
4. 老年症候群(転倒、誤嚥、失禁など)の予防
5. 介護負担感の軽減
6. 身近な場所での認知症介護サービス利用の情報提供
7. 緊急時の入院対応が可能な体制の維持

もの忘れセンターでの診療

● スタッフ

医師

[高齢者総合内科(老年科) (6), 神経内科 (8), 精神科 (3),
脳神経外科 (1), 放射線科(2), リハビリテーション科 (2), 循環器科 (1)]

看護師

心理士 (3)
言語聴覚士 (1)
精神科ソーシャルワーカー(1)
受付クラーク (1)

● 外来受付

月～金(午前/午後)
全予約制(電話または外来窓口にて受付)

● 高齢者総合的機能評価

認知機能
気分
ADL(日常生活動作)
IADL(手段的日常生活動作)
意欲
BPSD
介護者の負担
介護サービスの利用

● 特殊検査機器

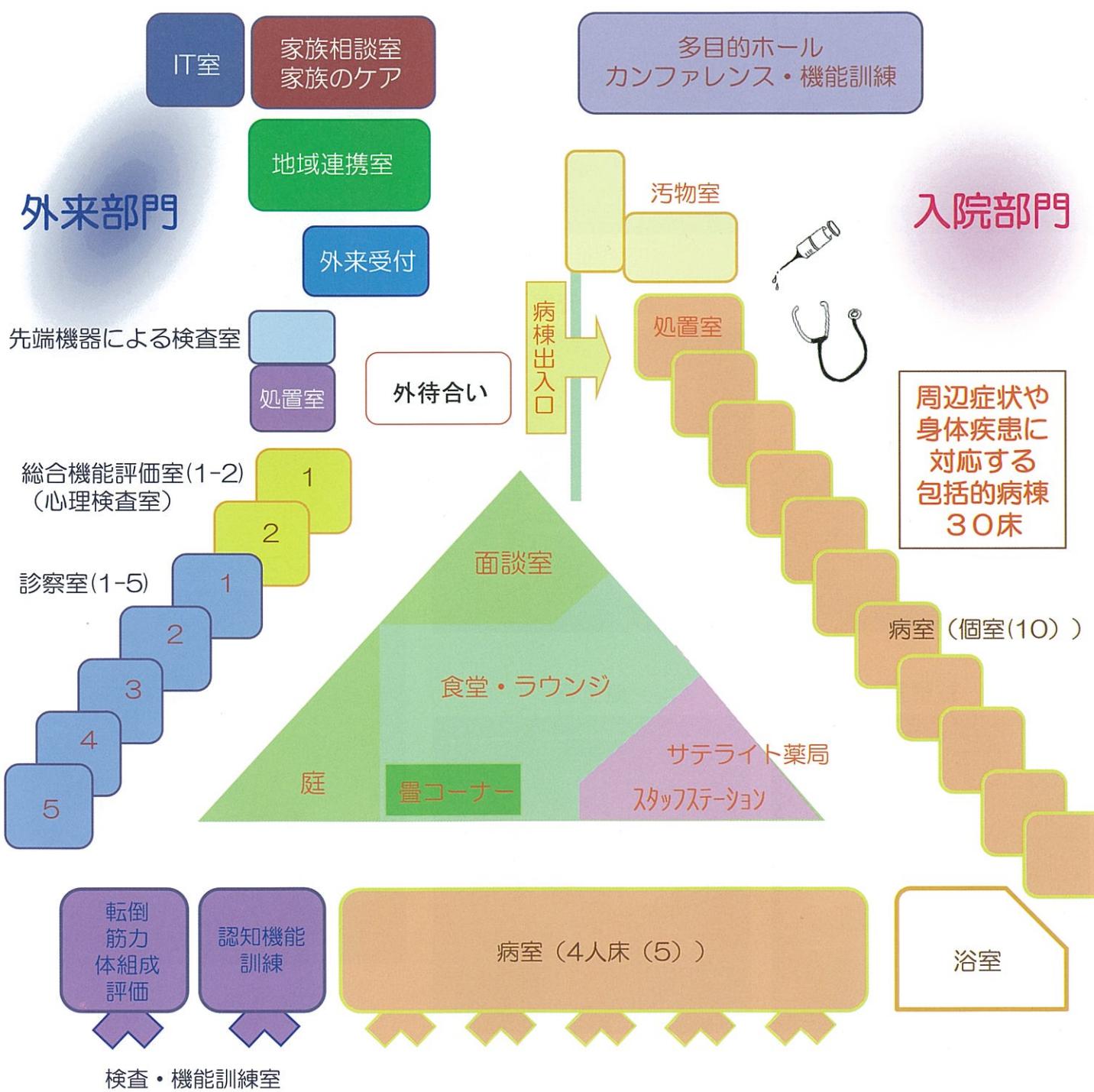
- MRI (1.5 Tesla/ 3.0 Tesla)
- SPECT
- PET-CT (FDG, Amyloid imaging)
- NIRS(光トポグラフィー)
- 磁気刺激装置
- 重心動搖計
- 体組成計
- 握力計(当研究所開発)

● 家族教室

● 非薬物療法(音楽、絵画、回想法)

もの忘れセンター配置図

もの忘れセンター入口

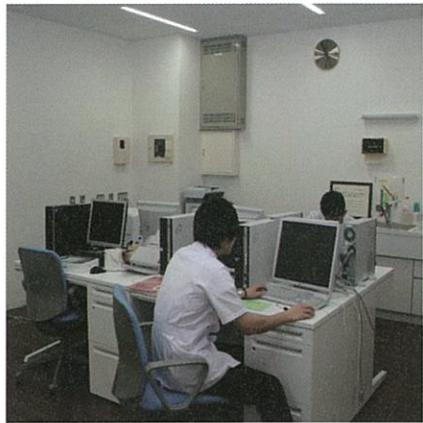


施設 (共通・外来部門)

外待合い



地域連携室



外来受付



IT 室



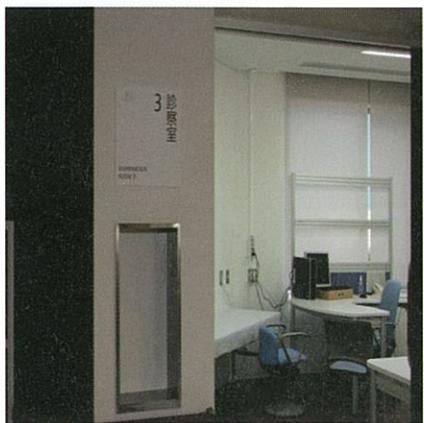
心理検査室



カンファレンスルーム



診察室



処置室



施設 (入院部門)

病室(個室)



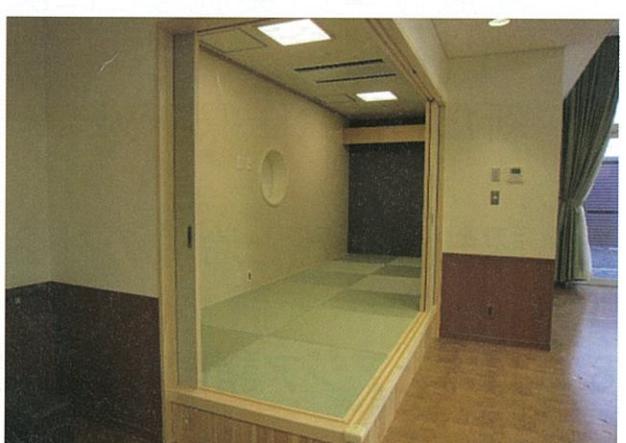
病室(4人床)



食堂・ラウンジ



畳コーナー



浴 室



スタッフステーション



もの忘れセンターの活動

認知症医療の理想モデルとしての地位の確立

1. 年間1,000人以上の初診患者の診療
2. 臨床研究・治験のデータベースの構築
3. 認知機能訓練による周辺症状の治療
4. 専門老年科医による認知症に伴う老年症候群の治療
5. 家族教室の実施などによる患者・家族を含めたチーム医療
6. 新たな社会医療ネットワークの構築
7. 認知症介護と治療の社会経済的評価
8. 日本とアジア諸国における医療スタッフの教育

新しいチーム医療

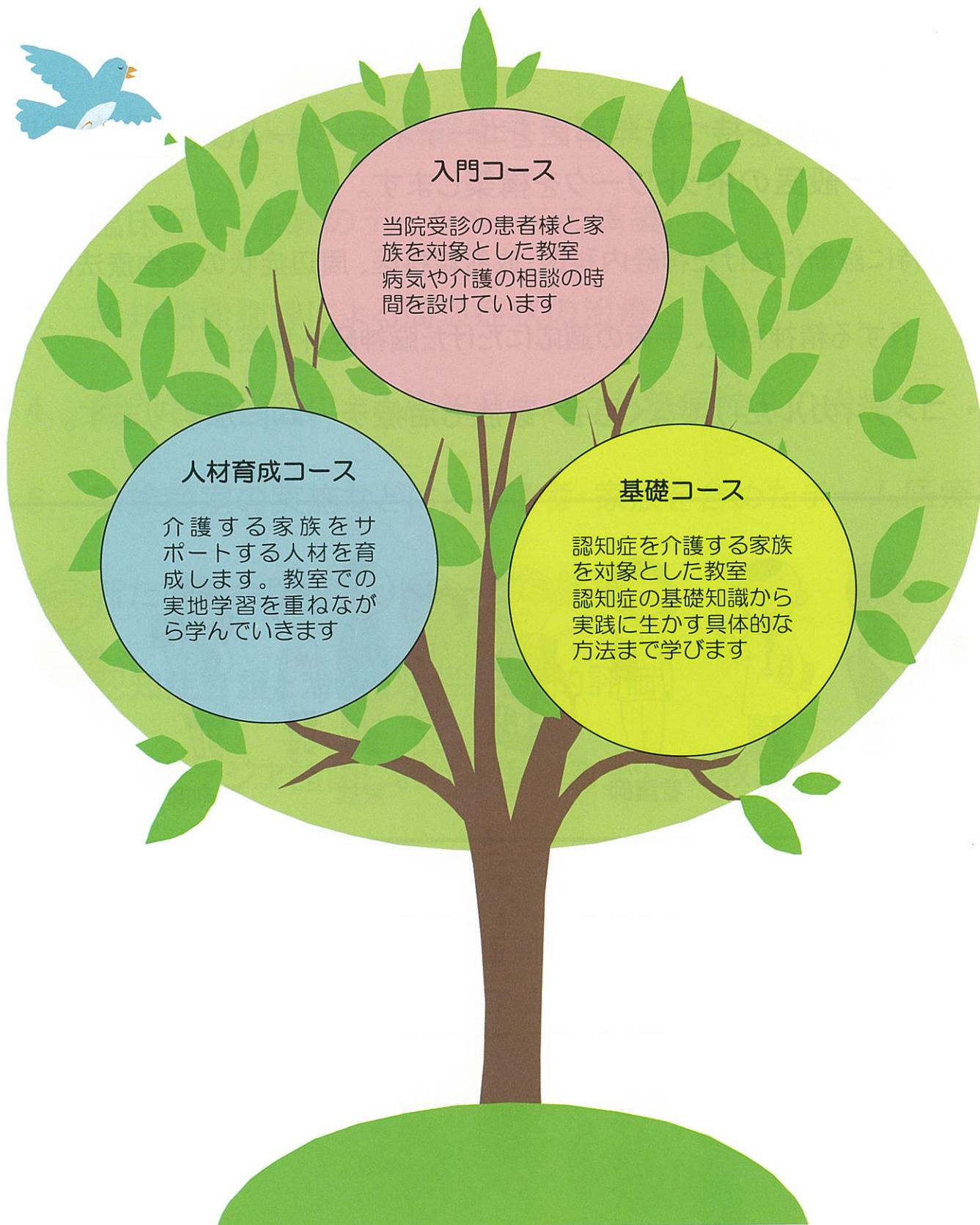
- ・ 豊富な知識を持つ老年科医をコーディネーターとして、専門家*と地域一般医のネットワークを構築します。
(*特に診断にたけた神経内科医・放射線科医、周辺症状の薬物療法に長ずる精神科医、手術の適応にたけた脳神経外科医)
- ・ コメディカルだけでなく患者・家族も治療チームに加わります。



患者の視点から「日常生活で直面する問題がどんな言葉で苦労として語られているか」を理解してチーム医療を行います。

家族教室

平成25年度 もの忘れ教室 コースご紹介

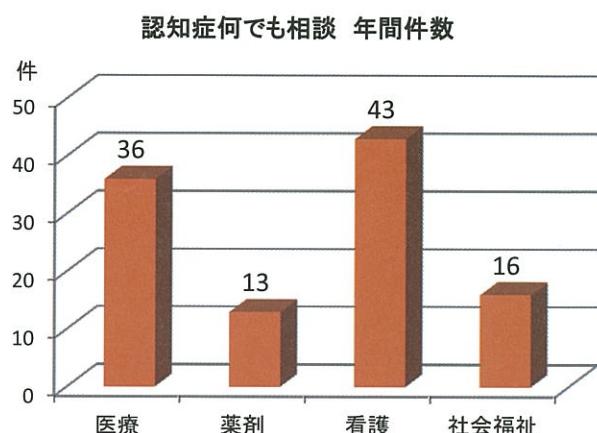
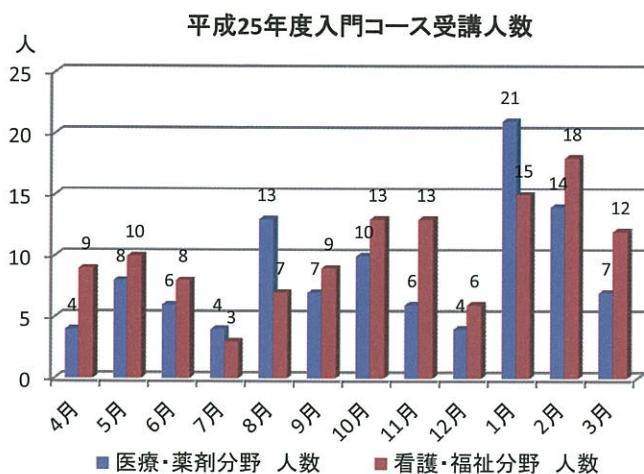


家族教室

平成25年度 もの忘れ教室参加者の状況

<入門コース> * 入門コースは、平成24年8月より開講しました。
平成25年4月～3月までの参加合計

医療・薬剤分野；104名（患者 26名、家族 78名）
看護・社会福祉分野；123名（患者 28名、家族 95名）

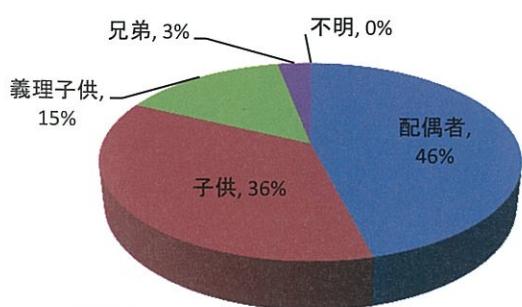


<基礎・ステップアップコース>

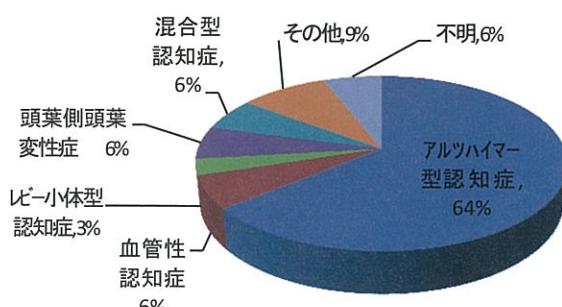
* 平成25年度は基礎Ⅱコースを1回、ステップアップコースを1回開講し、その成果から11月よりカリキュラム編成をした基礎コースを1回（全7回）開講しました。
平成26年度は基礎コースを3回実施する予定です。

	開催期間	募集人数	受講人数
基礎Ⅱコース	4月16日～ 7月 1日	30名	10名
ステップアップコース	8月 6日～11月15日	15名	15名
基礎コース	12月 2日～ 3月17日	15名	15名

全コースにおける参加介護者内訳



全コースにおける患者疾患名内訳



Memo

Memo



国立長寿医療研究センター
もの忘れセンター

〒474-8511 愛知県大府市森岡町7丁目430番地

TEL 0562-46-2311 <http://www.ncgg.go.jp>